

会長企画セミナー ～ニューノーマル時代の技術指導～

NSCLC診断：NGS時代の気管支鏡テクニック

～リアルな臨床動画で掴む

熟練レベルごとの着眼点と引き出し～

2022 5/28 土
14:40-16:10

第4会場

都ホテル岐阜長良川 2階 ボールルームA

〒502-0817 岐阜市長良福光2695-2

I 座長

笹田 真滋 先生

同愛記念病院 呼吸器内科

松元 祐司 先生

国立がん研究センター中央病院 内視鏡科・呼吸器内科

II 演者

桐田 圭輔 先生

上尾中央総合病院 呼吸器腫瘍内科

今林 達哉 先生

国立がん研究センター中央病院 内視鏡科

立原 素子 先生

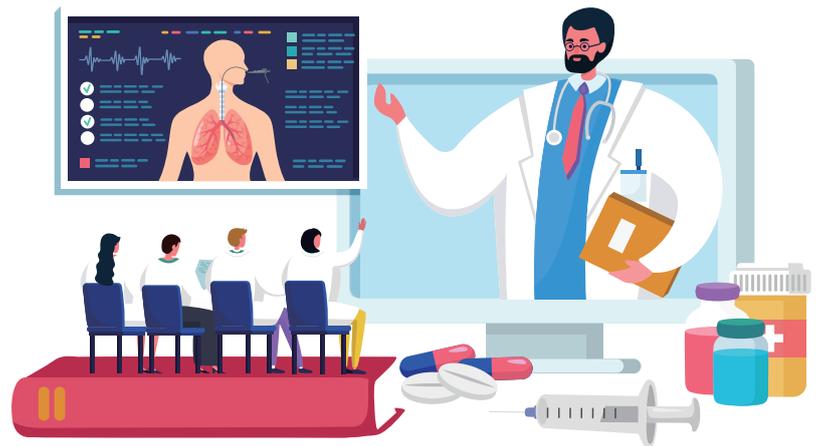
神戸大学医学部附属病院 呼吸器内科

都竹 晃文 先生

岐阜県総合医療センター 呼吸器内視鏡科・呼吸器内科

参加方法

本セミナーは、現地会場/ライブ配信にてご聴講いただけます。ご参加には、学術集会への参加登録が必要です。詳細は、学術集会HPよりご確認ください。



I 本セミナーの見どころ

大会長及びご登壇いただく先生方からのメッセージ▶



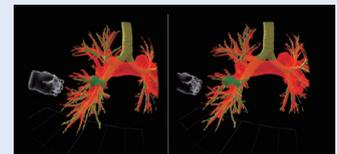
II VR動画も配信しています

セミナーでディスカッションする症例に類似した症例のCT画像とその三次元画像*です。応用症例として、腫瘍へのアプローチをまずはCT画像で、次に三次元画像の順でシミュレーションいただくことで、セミナーディスカッションをより深く学習いただけます。

*VRゴーグル(紙製、簡易版;没入感を体感いただけます)は、セミナー当日会場前で配布(貸与)いたします。

<VR 動画の視聴方法>

- ① 右の二次元コードより動画にアクセス
- ② VR ゴーグルにスマートフォンをセット



©Holoeyes Inc. Maki Sugimoto MD.

事前視聴がおすすめです



症例1



症例2

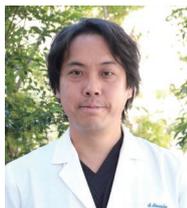
会長



浅野 文祐 先生 (岐阜県総合医療センター 呼吸器内科部長)

適切な診断はPrecision Medicineの入り口です。分子標的治療時代においてはNGS要件を満たす検体採取が重要となり、さらなる気管支鏡検査スキルのレベルアップが必要となります。本セミナーでは、ニューノーマル時代の技術指導として、気管支鏡専門医を目指される方、スキルをBrush Upして次のレベルを目指される方、若手のトレーニングに奮闘されている方、いずれの先生方にも持ち帰っていただけるNGS時代の気管支鏡テクニックのTipsを提供していきます。是非、ご参加ください。

座長



笹田 真滋 先生 (同愛記念病院 呼吸器内科)

本セミナーでは、NGS検査に耐えうる臨床検体をどのような視点や工夫で採取しているのか、あたかも施設見学のようなリアルな臨床動画を用いて解説します。また、熟練レベルに応じたレベルアップのコツについてもディスカッションしていきたいと思ひます。



松元 祐司 先生 (国立がん研究センター中央病院 内視鏡科・呼吸器内科)

再生検も初回生検も手技の基本は同じですが、NGSの要件を満たすには検体の質・量が重要であり、より高い精度の手技が求められます。本セミナーでは、非熟練者が次のステップに進むためのTipsを、熟練レベルごとの幅広い視点から解説していきたいと思ひます。

演者



桐田 圭輔 先生 (上尾中央総合病院 呼吸器腫瘍内科)

セミナーで取り上げるEBUS-TBNA症例のポイントは適応の考え方と正しいアプローチ方法です。腫瘍の位置関係を正しく把握し、適切なデバイスを選択することで、難しい穿刺も可能になります。状況に柔軟に対応できるスキルを身につけるヒントをご紹介します。



今林 達哉 先生 (国立がん研究センター中央病院 内視鏡科)

NGS提出目的の検体採取でEBUS-TBNAはなぜか敬遠されがちですが、一つ自分の穿刺・ストロークの“型”を持っておけば、安定して十分量の検体を採取できるようになります。さらに、本セミナーでは、どのような症例でEBUS-GSよりもEBUS-TBNAのほうが確実に検体量を確保できるかという視点から解説していきます。



立原 素子 先生 (神戸大学医学部附属病院 呼吸器内科)

NGS検査を成功させるために重要なポイントの一つは、最適な手技の選択です。EBUS-GSがよいのか、それともEBUS-TBNAがよいのか、EBUS-GSにおいては細径か太径か、病変に対していくつかのアプローチを事前にシュミレーションし、優先順位をつけることの重要性について取り上げていきます。



都竹 晃文 先生 (岐阜県総合医療センター 呼吸器内視鏡科・呼吸器内科)

確実な検体の採取には腫瘍への正しいアプローチ方法として適切な枝の選択に加え、腫瘍の場所や気管支の走行に合わせてデバイスを選択していくことも重要です。患者さんの体位を変えることも有効なことがあります。検体を採取する工夫や、VRを活用した腫瘍の位置関係の把握・枝の選択についても紹介したいと思います。